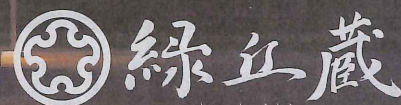


小さな蔵、大きな夢。

新しい酒蔵から 上川町の魅力発信。

「水と米に恵まれた上川地域は酒造りに最適な地元素材にこたわった高品質の日本酒を軸に、上川町の魅力を全国に発信できないだろうか」それまで酒造りとは全く無縁だった一人のビジネスパーソンの想いが多くの人の心を動かし、今年5月新しい酒蔵の誕生として結実しました。大雪の麓に佇む小さな蔵にこめられた願い、酒造りが担う役割とは――。

「通年醸造を行うので、特産酒造りにとって重要な温度管理を徹底するため、高断熱・高気密仕様で、清潔で安心、安全な環境であることも強く意識しました。」
あきやかな新緑や雪景色の中で映える黒を基調とした外観と、屋外に設けた見学デッキも印象的です。
約560平方メートルの広さのある敷地では、将来的に地元上川で収穫された農産物をとらえたメニューを計画するなど、「日本酒を軸にした上川町の魅力発信」を実現する舞台の役割を担うこととなります。
「酒造り現場や大雪の森のカーテンなど町の観光資源とともに、地域の活性化に貢献していきたいですね」と塚原社長、いよいよスタートしました。



りよつきゅうくら

水、米、人に惚れて酒造りを決意 多くの声に支えられ実現

「大雪山系の水と道産の酒米に惚れたんです。」
上川大雪酒造の塚原敏夫社長は、上川町に新しい酒蔵を建てようと思いついた当時を振り返り、真のすくに惚れ、いなくそう表現します。

2013年、大雪高原にフランス料理家の三國浩三さんがプロデュースするレストラン「フレンチ・ド・イ・ド・ノアール」がオープンしたことが縁となり、三國プランニングの副社長として上川町を訪れる機会が多かった塚原社長、水と米、そして地元の人々と交流を重ねるそのあたたかさを感じるうちに、「お酒造りの好条件がある。この地で、地産素材にこだわり世界に通用するお酒を造り、地方創生の一翼を担いたい」と考えるようになり、決意を固めました。

2015年、ゼロからのスタートで方向性を模索していた塚原社長を酒蔵の実現に導いてくれたのは、一つの再会でした。20代、30代の頃、黒豆にこだわったお酒造りを営む機会があり、何気なく交わされた公明から、新しい酒蔵を作るアイデアがふくらんでいったのです。

「20代の頃に仕事で赴任した三重、四日市の飲食店の方なのですが、実家の酒蔵が休眠状態だと教えてくれました。北海道に酒蔵を移転する」という計画はその時生まれました。

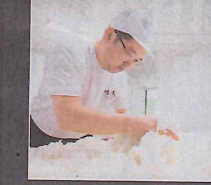
その後は、出資者を募るべく東京で奔走。形になつていくものといえば、塚原社長が自ら作った企画書のほかにかかわらず、日立キヤンパル株式会社の子会社を食、農事業を手掛ける日立トリブルウィン株式会社、桜東産業株式会社という東京の2企業が参画してくれたのです。

本州の酒造会社を北海道に移転する一歩かたつて備のない、向こう見ずとも言うべきこのプロジェクトに賛同してくれの人々がいなければ、「緑丘蔵」の誕生が実現することはありませんでした。

少量仕込み生産の小さな蔵 酒造りを軸に地方創生に貢献

「通常、これは自然に生まれた場所に酒蔵を建てることではないので、と笑う塚原社長。
2016年11月に着工した場所は、地川と所原川を結ぶ国道沿いの、雄大な大雪の麓に広がる上川町にあります。

あきやかな緑の木々を背景に建つ新しい「緑丘蔵」は、2階建て80平方メートルと酒蔵としては初のコンパクトな作り。
少量仕込み、少量生産で高品質な日本酒造りを目指しているため、このサイズが最適と判断しています。
設計を手がけたアトリエオンド「坂野建築士事務所」の大島有美氏は、社長と打ち合わせを繰り返しながら酒蔵としての機能を最大限に引き出す設計、仕様にこだわりました。



社長 川端 慎治
(かわはた しのじ)
小樽市生まれ、全国の様々な酒造りに携わる。2011年全日本酒造り協会にて北海道産100%の酒米で全賞状賞。現在「緑丘蔵」の社長として新たな日本酒造りに取り組む。

経験豊かな杜氏と若手蔵人が挑む「新しい日本酒造り」

少量仕込み、少量生産を基本に、丁寧かつ緻密な作業で品質の高いお酒を目指す「緑丘蔵」。全ての工程において温度管理、水分含有量の確認など職人ならではの細やかな気配りが求められ、経験豊かな川端杜氏と若手蔵人(くらひと)は醸造、出荷まで気を抜くことが出来ません。「北海道の美味と一緒に楽しむお酒を」と川端杜氏、今秋の発酒に向け期待が高まります。

2017年10月 原料米に北海道産の吟風・琴星・きたしずくを使用した純米酒・純米吟醸酒・純米大吟醸酒を順次発売予定



上川大雪酒造株式会社「緑丘蔵」

上川町 上川町25番地1
http://kaminawa-taisetsu.co.jp

代表取締役社長 塚原 敏夫

日本酒の製造を休止していた三重県の酒造会社を上川町に移転し、上川大雪酒造株式会社を設立し、2017年5月より新しい酒蔵「緑丘蔵」にて地産、道産素材にこだわった少量仕込み、高品質の高盛りを旨とする「吟醸産地(地産地創)生ビール」を製造し、地域活性化への貢献を目指す。